

財團活動主要報告



財団活動この一年を振り返って

— 安全・正確・迅速・守秘を合言葉に —

2023年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが2類感染症から5類感染症へ移行し、景気の自律的な循環を制約してきた要因のひとつは解消され、回復基調を取り戻しつつあります。しかしながら、円安ドル高傾向、物価の上昇、世界各地での混乱等々と国内外での経済への影響は大きく変化しています。

日本の総人口は、2024年4月の概算値では1億2,400万人で前年同月に比べて55万人減少しています。来年には団塊世代の方々が全て75歳以上となり、その割合は全人口の約18%を占めて少子高齢化に拍車がかかる一方です。また、医療技術の進歩等により、公衆衛生、食生活、住居環境の改善等の生活水準の向上により死亡率が低下し、先進諸国の平均寿命は伸長傾向にあります。その中でも、日本の平均寿命や健康寿命は高い水準にあります。参考までに、2023年の日本人の平均寿命は84.3歳（男性81.5歳、女性86.9歳）、健康寿命は74.1歳（男性72.6歳、女性75.5歳）で世界第1位です。（厚生労働省の統計より抜粋。健康寿命＝健康状態で生活することが期待される平均期間）

さて、2023年度はお客様への健診サービス提供の向上のために、胸部・胃部X線検診車（BM-23）を新たに導入し12月から本格稼働しています。

外部精度管理事業への参加では、全国労働衛生団体連合会が実施する胸部X線・胃部X線・腹部超音波の画像関係及び代謝物検査・臨床検査の精度管理事業に参加、及び、日本総合健診医学会が実施する胸部X線・心電図の画像関係及び臨床検査に参加して優秀な成績を収めています。作業環境測定においても、日本作業環境測定協会が実施する各種精度管理調査に参加して優秀な成績を収めています。

学会関係の発表では、第52回滋賀県産業医学会の事例発表1件、第44回作業環境測定研究発表会1件の計2件発表しました。

また、医療技術者の認定資格では、認定心電図専門士・心電図検定2級の資格取得者を増員することができました。資格保有者は「胃がん検診専門技師」「肺がんCT検診認定技師」「検診マンモグラフィ撮影認定技師」「超音波検査士」「乳がん検診超音波検査実施技師」「消化器内視鏡技師」等々が在籍し、精度管理の向上に尽力しています。

2023年度の取り組みでは、昨年度に引続きマスクフィットテストを継続実施しています。これは、特定化学物質障害予防規則（特化則）が2021年に改正され、「アーク溶接作業中に発生する溶接ヒューム」が特定化学物質に指定された法改正に伴い、作業者の安全確保のために「マスクを正しく装着できているか」を確認することが義務化されたことによります。当財団では、測定者を養成して受入れ体制を整えています。

また、健康診断実施後のサポートシステムとして、クラウドサービスによる健診結果の確認サービスも継続して展開しています。これによって、事業所のご担当者様は従業員の方の健診結果をパソコン等にて確認でき、健康管理にお役立ていただけます。また、受診者の皆様はスマートフォンにてご自身の健診結果を即時に確認できご好評をいただいています。今後もお客様のご意見を伺いながらより良いサービスの提供を進めていきます。

〈日常業務の実績報告〉

2023年度の産業保健、地域保健、学校保健、作業環境測定、特定保健指導の実施実績及び画像関係の精密検査の調査状況を報告します。詳細は、本事業報告書の「健康診断・作業環境測定の実績」をご参照ください。

・産業保健

2023年4月から、日本人間ドック学会に準拠した判定基準に変更したため、有所見者が2022年度と比べて変動しています。特に、視力検査は従来0.5以下を要経過観察としていましたが、0.7～0.9を要経過観察へと変更になりました。また、0.6以下は要精密検査とする基準が新たに設けられた影響もあり、有所見率が大きく増加しました。

定期健康診断の受診人数は135,585名で2022年度と比べて667名増加しています。また、生活習慣病健診は463名減少しましたが、全国健康保険協会（協会けんぽ）の生活習慣病健診への移行の影響で37,230名となり2,348名増加しました。また、人間ドック健診は3,810名となり184名増加しました。人間ドック健診及び生活習慣病健診の受診人数の増加は施設健診の日数を増やしたことが起因していると推察します。

・地域保健

特定健康診査の受診人数は5,097名となり前年と比べて475名減少、大腸がん検診は6,696名となり前年と比べて315名減少となっています。その要因としては、地域巡回で健康診断を受診することに地域住民の皆様がまだまだ新型コロナウイルス感染症への警戒心が残っているためと推察します。しかし、結核検診が10,467名で1,241名の増加、婦人科検診は乳がん検診3,148名・子宮頸がん検診3,064名となり、2年に1回の実施ではありますが増加傾向となり、新型コロナウイルス感染症の蔓延前の状況に戻りつつあります。

・学校保健

尿検査121,007名、心電図検査35,939名となり、少子化社会の中減少傾向がみられました。しかし、貧血検査・脂質検査の受診人数には大きな変動は見られませんでした。

・作業環境測定

測定実施事業場数は263で、延べ単位事業場数は1,689となり前年とほぼ同数となりました。

・特定保健指導

特定保健指導の実施人数は1,053名となり、徐々に面談者数は増加傾向がうかがわれます。

以上、2023年度の実績を振り返りました。

2024年度も基本理念を柱としたマネジメントシステムの仕組みを活用して「安全・正確・迅速・守秘」を遵守し、お客様へより良いサービスを提供できるよう役職員一同精進を重ねる所存です。皆様にはよりいっそうのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

理事会の開催

第87回 理事会

開催日 2023年5月27日（土）

場 所 滋賀保健研究センター診療所 別館研修室

議事内容

- 第一号議案 第43期(2022年度)事業報告案の件
- 第二号議案 第43期(2022年度)収支決算案の件
- 第三号議案 第43期(2022年度)公益目的支出計画実施報告承認の件
- 第四号議案 顧問委嘱の件

第88回 理事会

開催日 2023年5月27日（土）

場 所 滋賀保健研究センター診療所 別館研修室

議事内容

- 第一号議案 理事長、副理事長、専務理事選任の件
- 第二号議案 事務局長任免の件

第89回 理事会

開催日 2024年3月23日（土）

場 所 滋賀保健研究センター診療所 別館研修室

議事内容

- 第一号議案 第45期(2024年度)事業計画書承認の件
- 第二号議案 第45期(2024年度)収支予算書承認の件

評議員会の開催

第25回 評議員会

開催日 2023年5月27日（土）

場 所 滋賀保健研究センター診療所 別館研修室

議事内容

- | | |
|-------|------------------------------|
| 第一号議案 | 第43期(2022年度)事業報告の件 |
| 第二号議案 | 第43期(2022年度)収支決算書類承認の件 |
| 第三号議案 | 第43期(2022年度)公益目的支出計画実施報告承認の件 |
| 第四号議案 | 任期満了に伴う理事及び監事選任の件 |
| 第五号議案 | 理事及び監事並びに評議員の報酬の件 |

精度管理の取り組み

<内部精度管理>

健康管理事業の計画・実施から結果報告書作成までの精度の確保及び向上のため、診療所長を中心に成績管理委員会を組織して取り組んでいる。その専門部会として分科会(胃部・胸部・乳腺等)を開催し、各分野の先生方から読影・判読及び専門技能に関するご意見・ご指導を受けて各専門技術の向上を図っている。

精度の確保及び向上として、品質保証マネジメントシステム ISO9001 及び個人情報保護マネジメントシステム(通称:Pマーク)を活用している。

品質保証マネジメントシステムでは、健康診断サービス提供の仕組みの管理強化を図っている。また、個人情報保護マネジメントシステムでは、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」等を遵守することにより、健康管理データという最も機微な情報を取扱う事業者として個人情報の安全管理体制の構築に努めている。

品質保証及び個人情報保護マネジメントシステムを活用して、より信頼される保健サービスの提供に努めている。

• 主な取り組み事項は以下の通り

- 1) 顧客から受けた受注内容を確実に実施するための業務計画と編成の作成
- 2) 健康診断等の実施では、正確な検査とその結果の確認
- 3) OCR(自動光学読取装置)による正確な結果の入力と入力結果の確認
- 4) 前回値リスト及びヒストグラムを用いた精度管理の確認
- 5) 検査機器等の保守管理を励行することによる機器トラブルの防止
- 6) 正確な結果を迅速に報告するための各段階の進捗管理
- 7) 各種スタッフの教育訓練及び定期的な技術レベルの確認と向上
- 8) 上記の取り組みを行う上で、内部・外部に関わらず個人情報保護への管理体制の向上

<外部機関精度管理事業への参加>

全国労働衛生団体連合会が実施する総合精度管理事業、日本総合健診医学会が実施する精度管理事業及び日本作業環境測定協会が実施する統一精度管理事業等へ参加している。

これらの精度管理事業における各種精度管理調査において良好なる評価を受けている。

また、医師及び医療技術者等は、実務能力の向上を目的として、各団体が実施する研修会、講習会等へ積極的に参加している。

○ 全国労働衛生団体連合会が実施する総合精度管理事業

事業の目的及び内容

各種精度管理調査を行い、各種検査の技術及び精度を確認するとともに、必要な指導を行うことにより信頼性の高い優良な健康診断施設を育成する。

- ① 胸部X線写真に関する精度管理調査 …… 2023年10月〔評価 A〕
胸部X線写真の撮影技術について精度を確認する。
- ② 腹部超音波検査に関する精度管理調査 …… 2023年11月〔評価 A〕
腹部超音波の検査技術、撮影技術について精度を確認する。

- ③ 労働衛生検査に関する精度管理調査 …… 2023年11月〔評価 A〕
鉛及び有機溶剤業務従事者の特殊健康診断に係る代謝物等の測定精度を確認する。
- ④ 胃部X線検査に関する精度管理調査 …… 2024年1月〔評価 A〕
胃部X線検査の撮影技術、読影技術について精度を確認する。
- ⑤ 臨床検査精度管理調査 …… 2024年2月〔評価 A〕
健康診断施設及び登録衛生検査所が実施する臨床検査の検査精度を確認する。

月

令和6年1月31日

精度管理調査評価結果通知書
【胸部エックス線検査分野】

施設コード：25002
（一財）滋賀保健研究センター 殿

公益社団法人 全国労働衛生団体連合会
総合精度管理委員会
胸部エックス線検査専門委員会

令和5年度 全衛連エックス線写真精度管理調査を評価した結果

貴施設は、【胸部エックス線画像の
審査結果は 評価 A】に
なりましたので通知します。

【評価区分】
評価A：評価合計点の平均が、85点以上。
評価B：評価合計点の平均が、70点以上 85点未満。
評価C：評価合計点の平均が、60点以上 70点未満。
評価D：評価合計点の平均が、60点未満。

月

令和6年2月29日

精度管理調査評価結果通知書
【腹部超音波検査分野】

施設コード：25002
（一財）滋賀保健研究センター 殿

公益社団法人 全国労働衛生団体連合会
総合精度管理委員会
腹部超音波検査専門委員会

公益社団法人 日本人間ドック学会

令和5年度 腹部超音波検査精度管理調査を実施した結果

貴施設は、【 評価 A】に
なりましたので通知します。

【評価区分】
評価A：評価合計点の平均が、85点以上。
評価B：評価合計点の平均が、70点以上 85点未満。
評価C：評価合計点の平均が、60点以上 70点未満。
評価D：評価合計点の平均が、60点未満。

月

令和6年3月13日

精度管理調査評価結果通知書
【労働衛生検査分野】

施設コード：25002
（一財）滋賀保健研究センター 殿

公益社団法人 全国労働衛生団体連合会
総合精度管理委員会
労働衛生検査専門委員会

令和5年度 全衛連労働衛生検査精度管理調査を評価した結果

貴施設は、【 評価 A】に
なりましたので通知します。

【評価区分】
評価A：評価合計点の平均が、85点以上。
評価B：評価合計点の平均が、70点以上 85点未満。
評価C：評価合計点の平均が、60点以上 70点未満。
評価D：評価合計点の平均が、60点未満。

月

令和6年3月31日

精度管理調査評価結果通知書
【胃X線検査分野】

施設コード：25002
（一財）滋賀保健研究センター 殿

公益社団法人 全国労働衛生団体連合会
総合精度管理委員会
胃X線検査専門委員会

一般社団法人 日本消化器がん検診学会

令和5年度 胃X線検査精度管理調査を実施した結果

貴施設は、【 A評価】に
なりましたので通知します。

【評価区分】
評価A：評価合計点の平均が、85点以上。
評価B：評価合計点の平均が、70点以上 85点未満。
評価C：評価合計点の平均が、60点以上 70点未満。
評価D：評価合計点の平均が、60点未満。

月

令和6年4月3日

精度管理調査評価結果通知書
【臨床検査分野】

施設コード：25002
一般財団法人 滋賀保健研究センター 殿

公益社団法人 全国労働衛生団体連合会
総合精度管理委員会
臨床検査専門委員会

令和5年度 全衛連臨床検査精度管理調査を評価した結果

貴施設は、【 評価 A】に
なりましたので通知します。

【評価区分】
評価A：評価合計点の平均が、85点以上。
評価B：評価合計点の平均が、70点以上 85点未満。
評価C：評価合計点の平均が、60点以上 70点未満。
評価D：評価合計点の平均が、60点未満。

○ 日本総合健診医学会が実施する精度管理調査

- ① 第1回精度管理調査 2023年2月〔評価 良好〕
画像検査、生理検査（胸部X線写真と心電図の判定）
- ② 第2回精度管理調査 2023年4月〔評価 A〕
 - 1) 3濃度の項目 TP, Alb, A/G, LDH, ALP, TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST, ALT, γ -GTP, Cre, UA, BUN, Glu, CRP
 - 2) 1濃度の項目 HbA1c
 - 3) 2濃度の項目 血算
 - 4) 2濃度の項目 尿検査
- ③ 第3回精度管理調査 2023年7月〔評価 A〕
 - 1) 3濃度の項目 TP, Alb, A/G, LDH, ALP, TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST, ALT, γ -GTP, Cre, UA, BUN, Glu, CRP
 - 2) 2濃度の項目 血算
 - 3) 2濃度の項目 便潜血
- ④ 第4回精度管理調査 2023年9月〔評価 A〕
 - 1) 3濃度の項目 TP, Alb, A/G, LDH, ALP, TG, TC, HDL-C, LDL-C, AST, ALT, γ -GTP, Cre, UA, BUN, Glu, CRP
 - 2) 1濃度の項目 HbA1c
 - 3) 2濃度の項目 血算
 - 4) 2濃度の項目 尿検査

○ 日本作業環境測定協会が実施する統一精度管理事業

事業の目的及び内容

作業環境測定結果報告書の審査、クロスチェック試料の分析結果を集計・解析することによって、作業環境測定に関する技術上の問題点を明らかにするとともに、個々の作業環境測定機関の精度管理体制と測定技術の精度を評価し、これらに基づく必要な指導を行い精度管理の向上を促進する。

項 目	合 格 証 有 効 期 限
デザインクロスチェック	2022年4月1日～2024年3月31日
サンプリングクロスチェック	2022年4月1日～2024年3月31日
特定化学物質クロスチェック	2022年4月1日～2024年3月31日
金属類クロスチェック	2022年4月1日～2024年3月31日
有機溶剤クロスチェック	2022年4月1日～2024年3月31日
粉じんクロスチェック	2023年4月1日～2025年3月31日

成績管理委員会・精度管理委員会の運営について

1987年12月12日より適用

2011年3月12日 一部改正

(精度管理委員会の設置目的と委嘱委員分野)

<運営要綱>

1. 弊財団の事業推進に当って、総合健康管理機関としての在り方・精度上の問題・健診成績判定基準及び管理区分等の保健事業に関係した諸問題を協議し円滑な運営を計る事を目的として、成績管理委員会・精度管理委員会を設置する。
2. 成績管理委員会
健康診断業務に伴う精度上の問題、成績判定基準、管理区分並びに成績の読影等の問題を検討・協議して、総合健康管理機関の社会的責任を確立するとともに、健診システムの向上を図る。
 - I、成績管理委員会の責任者は診療所長とする。
 - II、成績管理委員会は原則として年1回程度開催する。
 - III、成績管理委員は、診療所長の推薦を得て理事長が委嘱する。
3. 精度管理委員会（分科会）
分野ごとの精度向上に対して検討・協議することを目的として設置する。
 - I、精度管理委員会（分科会）は、原則として年1回程度開催する。
 - II、構成する委員は、それぞれの分野における判読・読影の担当医とする。

<成績管理委員の委嘱について>

1. 委嘱期間は2年間とする。
2. 委嘱委員は、診療所長が推薦する者とし、弊財団理事及び顧問を含む。
精度管理委員会（分科会）にて中心となる理事及び顧問は、分科会の責任者として成績管理委員会への出席を原則とする。
3. 委嘱に関わる専門分野は次のとおりとする。
公衆衛生（産業保健、学校保健、地域保健）、放射線科（胸部・胃部・乳房を含む）、循環器科、眼科、整形外科、婦人科、精神衛生、臨床検査、病理細胞診検査
4. 委嘱に関わる専門分野は委嘱期間満了時に適宜見直す。

成績管理委員会

成績管理委員名簿

成績管理委員会責任者：安田 齋（滋賀保健研究センター診療所長）（敬称略）

委嘱委員

循環器科：小田原健一（小田原医院）
加藤 孝和（かとう医院）
大西 和彦（大西医院）

眼 科：山元 力雄（山元医院）
岸本 真人（岸本眼科医院）

整形外科：山田 忠尚（山田整形外科病院）

婦人科：高橋健太郎（日野記念病院 婦人科 顧問）

精神衛生：田中 和秀（ひつじクリニック）

病理・細胞診：賀集 一平（株式会社メディック顧問 病理医）

特殊健診：廣田 善彦（廣田産業医事務所）

滋賀保健研究センター

理事長：三原 卓
技術顧問：中上 和義
技術顧問：井村 壽男
技術顧問：新井 康泰
技術顧問：北野 浩
技術顧問：熊谷 卓生
技術顧問：小倉 伸一
技術顧問：藤井 保人
技術顧問：池野 浩司

事務局：伊吹 仁
健康管理部：高田 勝巳（准看護師）
他 臨床検査技師、保健師

2023年度(第14回)画像分科会

開催日 2024年3月2日(土)

場 所 滋賀保健研究センター診療所 別館研修室

付 議 事 項 座 長 診療所長 安田 齋

1. 2022年度 がん検診精密検査集計結果の報告
2. 全国労働衛生団体連合会
令和5年度 胸部X線検査精度管理調査結果
令和4年度 胃部X線検査精度管理調査結果
3. 読影に関する連絡事項
4. 症例検討（胸部：4例、胃部：3例、マンモ：3例、超音波1例）

2023年度(第37回)成績管理委員会

開催日 2024年3月16日(土)

場 所 滋賀保健研究センター診療所 別館研修室

付 議 事 項 座 長 診療所長 安田 齋

1. 2023年健診主要報告
 - ① 健診実施集計
 - ② 検査項目別有所見率
 - ③ 精密検査集計
2. 精度管理の取り組みについて
 - ① エックス線検査
 - ② 循環器検査
 - ③ 検体検査
3. 画像分科会の報告
4. 2024年度変更点

学会の発表

学 会 名	発 表 演 題	発 表 者
2023年6月 滋賀県産業医会 第52回滋賀県産業医学会 事例発表	心電図判定マニュアル改定後 の判定区分の変化	臨床検査技師 永瀬 歩美
2023年11月 (公社)日本作業環境測定協会 第44回作業環境測定学術大会 事例報告	フッ化水素酸 取り扱い職場の リスクアセスメント事例	作業環境測定士 本庄 勉

心電図判定マニュアル改定による判定区分の変動について

一般財団法人 滋賀保健研究センター 永瀬 歩美

はじめに

日本人間ドック学会の心電図検診判定マニュアルが、2023年度に改定された。新しいマニュアルでは、判定区分の決定に自覚症状を考慮する所見が多く見られ、判定区分が変化することが考えられた。

そこで、弊財団が新しい判定マニュアルを導入した場合、自覚症状の有無により判定区分がどのように変動するかを検討したので報告する。

調査対象

2022年度に弊財団での事業場健診受診者から無作為に選択した10,992名（男性：6,573名 女性：4,419名）の内、調査対象の所見があった303名の心電図結果を用いた。

方法

新しいマニュアルの判定区分定義に自覚症状の条件がある所見について、現行判定と対比しその変動について調査した。

- ・PR延長 - 条件①
- ・PR短縮 - 条件①
- ・QT延長 - 条件①
- ・WPW症候群 - 条件②
- ・上室性期外収縮 - 条件③
- ・上室性期外収縮（頻発・連発） - 条件③
- ・心室性期外収縮 - 条件③
- ・心室性期外収縮（頻発・2連発） - 条件③
- ・心室性期外収縮（多形性） - 条件③

条件①：失神・息切れなど徐脈性不整脈を疑う自覚症状を伴う。

条件②：失神・動悸など不整脈疾患を疑う自覚症状を伴う。

条件③：重篤な基礎疾患・動悸・息切れなどの自覚症状を伴う。

弊財団の判定区分表記を日本人間ドック学会の判定に合わせるため変換した。

- 正常範囲内：A判定 有所見正常範囲：B判定
- 経過観察：C判定 要精密検査：D判定

結果

変動結果を表1に示す。

	現行判定区分：件	人間ドック学会基準区分：件	変動率：%
上室性期外収縮	B判定 55	条件非該当（B判定） 54	1.8
		条件該当（C判定） 1	
心室性期外収縮	B判定 76	条件非該当（B判定） 70	7.9
		条件該当（C判定） 6	
PR延長	C判定 56	条件非該当（B判定） 52	7.1
		条件該当（D判定） 4	
PR短縮	C判定 7	条件非該当（B判定） 6	14.3
		条件該当（D判定） 1	
QT延長	D判定 24	条件非該当（C判定） 18	75.0
		条件該当（D判定） 6	
WPW症候群	D判定 3	条件非該当（C判定） 3	100.0
		条件該当（D判定） 0	
上室性期外収縮（頻発・連発）	D判定 23	条件非該当（C判定） 18	78.3
		条件該当（D判定） 5	
心室性期外収縮（頻発・2連発）	D判定 56	条件非該当（C判定） 45	80.3
		条件該当（D判定） 11	
心室性期外収縮（多形性）	D判定 3	条件非該当（C判定） 2	66.7
		条件該当（D判定） 1	

表1

現行判定区分のB判定については131件、C判定は63件、D判定は109件だった。

新しいマニュアルの判定区分に変更すると、B判定が182件、C判定が93件となり、D判定は28件となった。

考察

自覚症状の有無を判定に反映することにより、精密検査対象者をよりの確に抽出することが可能になると考える。精密検査の受診は、受診者へ精神的にも経済的にも負担をかけることになり、可能な限り減らしていくのが望ましいと考えている。

まとめ

弊財団では、日本人間ドック学会の新しい判定区分の採用を検討している。しかし、現行の受診票の設問で必要な内容を、正確に聴取できるかを検討する必要がある。今後は、心電図検査に特化した設問の設定等も合わせて検討していきたい。

フッ化水素酸 取り扱い職場のリスクアセスメント事例

一般財団法人 滋賀保健研究センター 本庄 勉
安田 斎

【背景及び目的】

2022年度作業環境測定研究発表会（姫路市）にて、「特別規則の対象となっていない化学物質の管理の現状」を発表し、「事業所内でリスクアセスメントを効果的に活用するためには、一部の社員に任せず、職場の全員が参加するシステム作りが望まれる」と報告した。弊財団においても、顧客（事業所）に対してリスクアセスメントの導入を推奨・指導したところ、よく理解され、良好にリスクアセスメントを継続している事業所が見受けられた。当該事業所（A社）の取り組み内容を紹介する。

【指導前のリスクアセスメント実施状況】

A社における化学物質のリスクアセスメントは、消防法の「危険物」としての引火、爆発火災のリスクを対象とした事例がほとんどであり、健康障害リスクに対するリスクアセスメントは、作業環境測定、健康診断を除くと、ほとんど行っていなかった。

今回の指導を契機として、健康障害防止のリスクアセスメントを社員全員で学び、リスクアセスメント項目を充実させ、安全で快適な職場を構築することを目標とした。

【方法】

外部指導者として滋賀保健が、A社の社員に対してリスクアセスメントの方法等を指導する。指導を受けたA社の社員自ら、リスク評価と、優先して対策に取り組む作業場を決定し、改善対策まで実施するシステムにて、当取り組みを開始した。

具体的な流れは以下の通りである。

- ①指導前のリスクアセスメント実施状況の確認
- ②リスクアセスメント実施組織、実施体制の確立
- ③リスクアセスメント実施場所／対象作業の選定
- ④対象作業のリスク低減措置
- ⑤導入の効果

【リスクアセスメント実施組織、実施体制の確立】

実施組織を作り、メンバーを2グループに分け、個々役割を持たせた。

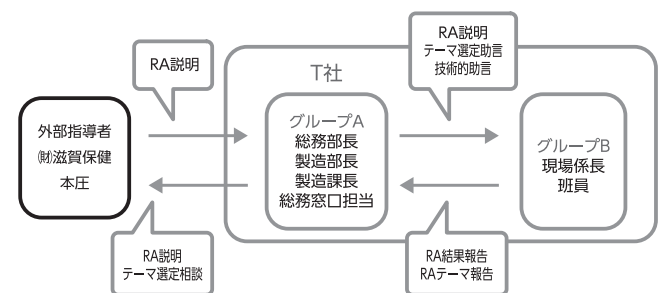
グループA：外部指導者より直接指導を受ける経営側担当者
（総務部長、総務課長、製造課長等）

グループB：グループAより指導を受ける実務側担当者
（製造係長、班員等）

グループAは、外部指導者より直接指導を受けた後、グループBに対する「先生」となりリスクアセスメントを説明する。Bグループは指導内容を基に、それぞれの現場のリスク評価を実施する。グループAがBに教育することで、A社内に教育を浸透させた。

また、指導結果はグループAメンバーにフィードバックされ、習熟度を確認した。（表1）

表1 実施グループ構成



【リスクアセスメント実施場所／対象作業の選定】

1) グループBに、リスクアセスメント実施場所／対象作業の提案（表2）を求め、彼ら自ら、リスク評価を実施した。

この結果、提案された「酸洗い作業場」が、リスクレベルIV&Sとなり、早急な対策が必要であることが判明し、優先して対策に取り組むこととした。

表2 リスクアセスメント実施場所／対象作業の提案

作業場名	作業内容	作業環境測定管理区分	CREATE-SIMPLEリスクレベル	特殊健康診断所見の有無
溶接組立作業場	アーク溶接組立て	第1管理区分	リスクレベルI	所見なし
塗装作業場	吹付け塗装	第1管理区分	リスクレベルIII	所見なし
酸洗い作業場	フッ酸槽への浸漬	第2管理区分	リスクレベルIV	1名所見あり
試験作業場	性能試験など	第1管理区分	リスクレベルI	所見なし

2) 酸洗い作業場の業務内容は次の通りである。防液堤で囲まれた作業場内に5%フッ化水素酸約200kgが入った浸漬槽が設置されている。

- ①ホイストにて吊り下げたSUS製品をフッ酸槽に浸漬する。
- ②引き上げたSUS製品に、高圧水をノズル吹き付けし、製品表面に付着したフッ化水素酸を除去する。
- ③エアガンにて、高圧エアーを吹き付け、表面に付着した水滴を除去する。
- ④乾燥後、次工程に送る。

【対象作業のリスク低減措置】

1) リスクアセスメント後の対策

①当作業場に対して、対象作業のリスクレベル低減のための対策が話し合われ、局排フードが設置された。作業環境測定結果・リスクレベルは変わらなかったが、有所見者が0名となり、作業環境の改善が伺われた。これで、A社内にリスクアセスメントの仕組みができたため、外部指導者は徐々に関係を薄くし、ここから先はA社の自主性に任せた。

②1回目のリスクアセスメントの効果の確認後、A社の実施組織内で、再リスクアセスメントが行われ、改善対策が取られた。

周辺作業域へのフッ酸ミストの飛散防止のため、高圧水の吹き付けエリアに、ビニールカーテンを設置された。

フッ酸ミストがカーテン囲い内に籠もってしまい、作業環境測定結果は第2管理区分から改善されなかった。

③再リスクアセスメントの効果の確認後、再々リスクアセスメントが行われ、再度、改善対策が取られた。フッ酸槽の横に純水洗浄槽を設け、フッ酸槽から引き上げた製品を純水洗浄槽に浸漬し、製品に付着したフッ酸を洗い流した後、高圧水でノズル吹き付けするよう、作業工程が一部変更された。作業環境測定結果が第1管理区分に改善された。

2) リスクアセスメント実施後の結果（表3）

取り扱うフッ化水素酸の量・濃度は変わらないため、リスクレベルⅣは変わらなかった。

作業環境測定結果は、第2管理区分から第1管理区分に改善された。特殊健康診断結果においても所見者なしとなった。

表3 リスクアセスメント実施後の結果

実施年	2021年以前	2021年下期	2022年上期	2022年下期
改善対策	指導前	局排フード設置	カーテン設置	水洗槽設置
作業環境測定管理区分	第2管理区分	第2管理区分	第2管理区分	第1管理区分
CREATE-SIMPLE リスクレベル	リスクレベルⅣ	リスクレベルⅣ	リスクレベルⅣ	リスクレベルⅣ
特殊健康診断 所見の有無	1名所見あり	所見なし	所見なし	所見なし

【導入の効果（経営側担当者からのご意見）】

1) 事業所におけるリスクアセスメントの必要性に対する理解

今回の指導を終えて、今まで曖昧であった、経口毒性や生殖毒性などのハザードレベル、作業環境測定の管理区分、推計法（クリエートシンプル等）から求まるリスクレベルの関係が理解でき、断片的な知識として持っていた個々の因子が化学物質の「リスク」として結びつき、管理の対象として明確に理解できた。

2) 事業所全体へのリスクアセスメントの実施

今回指導を受けた酸洗い作業場について、更に深く当該手法を深耕する。併せて他課への水平展開を推進する。

3) 化学物質管理組織・体制の整備

当事業所は150名に満たない規模であることから、大規模な組織・体制を整えることは難しいが、従来の環境安全担当の職務に、化学物質管理や各課のリスクアセスメント活動管理を含める。

4) 今後の課題

事業所内に化学物質のリスクアセスメントを定着させ、その習熟度を高めていくこと。また、習熟度の高い職員を育成すること。

【考察】

1) 当事例では、A社内に実施組織を作り、メンバーを2グループに分け、それぞれ役割を持たせたことにより、経営側のトップから実務側担当者まで、多くの社員にリスクアセスメントの理解が進んだ。彼ら自らリスク評価し、改善対策の立案・実施及び、リスクマネジメントまで繋げることができた。

2) 事業所内でリスクアセスメントを効果的に活用するためには、一部の社員に任せず、職場の全員が参加するシステム作りが必要である。全員が参加することで業務経験が浅い労働者も、職場に潜む危険性や有害性を把握できるようになる。職場全体でリスクに対する意識を共有できれば、より高い効果が期待できると考える。

第30回 滋賀保健研究センターミニ学会

滋賀保健研究センターでは、医療技術者を中心に、関連学会への発表に向けたステップアップの場及び内部精度管理の向上を目的として、「滋賀保健研究センターミニ学会」を毎年開催し、年度内の調査研究の成果を報告しています。

2023年度の発表は、管理栄養士1題、人間ドック健診担当者1題、診療放射線技師2題、臨床検査技師6題、伊賀診療所1題の計11題でした。

今後も医局の先生方の指導の下、関連学会等での発表のステップとし、各職種において多角的に調査研究を重ねて、皆様の健康管理推進に役立つ活動を展開していきます。

開催日 2024年3月26日（火）

場 所 滋賀保健研究センター診療所 別館研修室

ミニ学会内容

職 種	演 題 の 内 容
管 理 栄 養 士	特定保健指導の介入時期による改善効果の比較検討
人間ドック健診担当者	人間ドックアンケート調査と改善
診 療 放 射 線 技 師	発泡剤飲用方法の変更による画像精度の変化
診 療 放 射 線 技 師	新型コロナウイルス感染症における地域保健の受診調査
臨 床 検 査 技 師	オプション検査実施調査
臨 床 検 査 技 師	40歳未満におけるマンモグラフィの有効性
臨 床 検 査 技 師	騒音健診における6000 Hz測定追加による変化の調査
臨 床 検 査 技 師	直接塗抹法と液状検体細胞診（LBC法）の要精検率の比較
臨 床 検 査 技 師	試験管による血小板数値の調査
臨 床 検 査 技 師	近点距離の測定速度による誤差についての調査
伊 賀 診 療 所	伊賀方面の職種による有所見率の違いについて

検診車整備

整備内容 〈内訳〉	胸部・胃部 X 線検診車 (BM23 号車)
シャーシ	いすゞ自動車 2RG-FTR90V2
架装内容	キャノンメディカルシステムズ デジタル胸部・胃部 X 線撮影装置 (SREX-D32C/S2) デジタル胸部 X 線撮影画像処理システム (CXDI-SYSTEM)

1. 車両全体像



2. 車輻内装



健康経営の取り組み



昨年に引き続き、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人 2024 (大規模法人部門)」に一般財団法人滋賀保健研究センターが認定されました。

健康経営優良法人認定制度とは、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから評価を受けることができる環境を整備することを目的に、2016年度に経済産業省が創設した制度です。

健康・医療新産業協議会健康投資ワーキンググループ（日本健康会議健康経営・健康宣言10万社WG合同開催）において定められた評価基準に基づき、日本健康会議が「健康経営優良法人」を認定します。

弊財団では、お客様に満足していただける事業を推進するために、職員自身が心身ともに健康で働くことができ、笑顔でお客様に対応することが大事であると考え、健康経営の推進に取り組んでいます。今後も職員の健康保持と増進に努め、お客様により良いサービスを提供できるよう尽力いたします。

